

# 「美濃いび茶」海外展開

## 国際市出品、販路を開拓

J A いび川

いび川農業協同組合（JA いび川、揖斐郡揖斐川町）は美濃いび茶の輸出に乗り出す。国内の消費量の減少を受け、海外市場を開拓する。製茶だけでなく、ジェラートなど茶の加工品の輸出も推進する。

（馬田泰州）

### ブランド向上図る

11～15日に香港で開かれるアジア最大級の国際総合食品見本市「フード・エキスポ2016」に出展。約2万人のバイヤーの来場が見込まれる見本市に桂茶生産組合の美濃いび茶の抹茶を出品する。

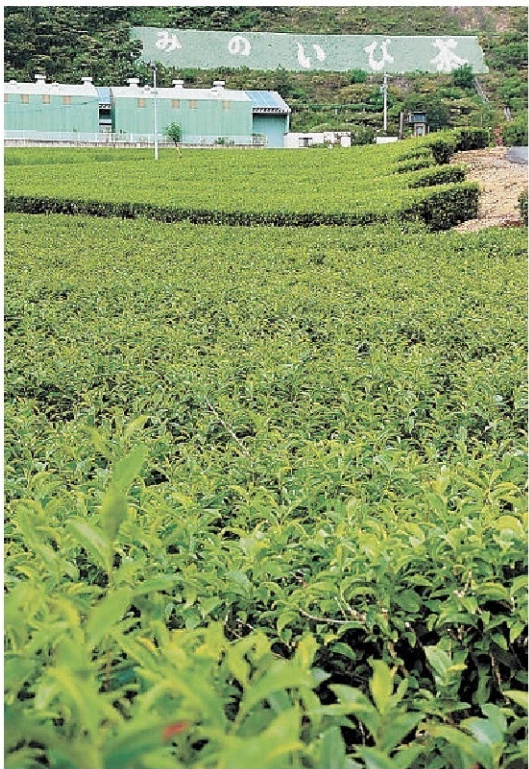
11月にはJA全農岐阜と東南アジアで揖斐郡農産物フェアを予定

定。美濃いび茶やジェラート、郡内産の農産物を紹介する。一連の海外展開でニーズをつかむ。

美濃いび茶は西濃を中心に栽培されているお茶の総称。昨年、揖斐川町であった関西茶品評会の普通せん茶の部で最高賞の農林水産大臣賞を獲得したが、

生産量は減少傾向にある。主な産地である同町の2015年の生産量は169トで、5年間で約50ト減った。一方、日本産のお茶は日本食ブームや健康志向の高まりから海外での需要が拡大。15年から美濃白川茶の輸出

の輸出量は4127トと10年間で4倍近く伸びており、今後増加が見込まれている。JA いび川の堀尾茂之組合長は「海外戦略に力を入れる。輸出を通して国内市場での美濃いび茶のブランド向上を図りたい」と話す。



美濃いび茶の茶畑＝揖斐郡揖斐川町桂